

3.4 土質柱状図

与那原マリーナ内の土質柱状図は、以下のとおりである。

(今回使用した柱状図のみ掲載)

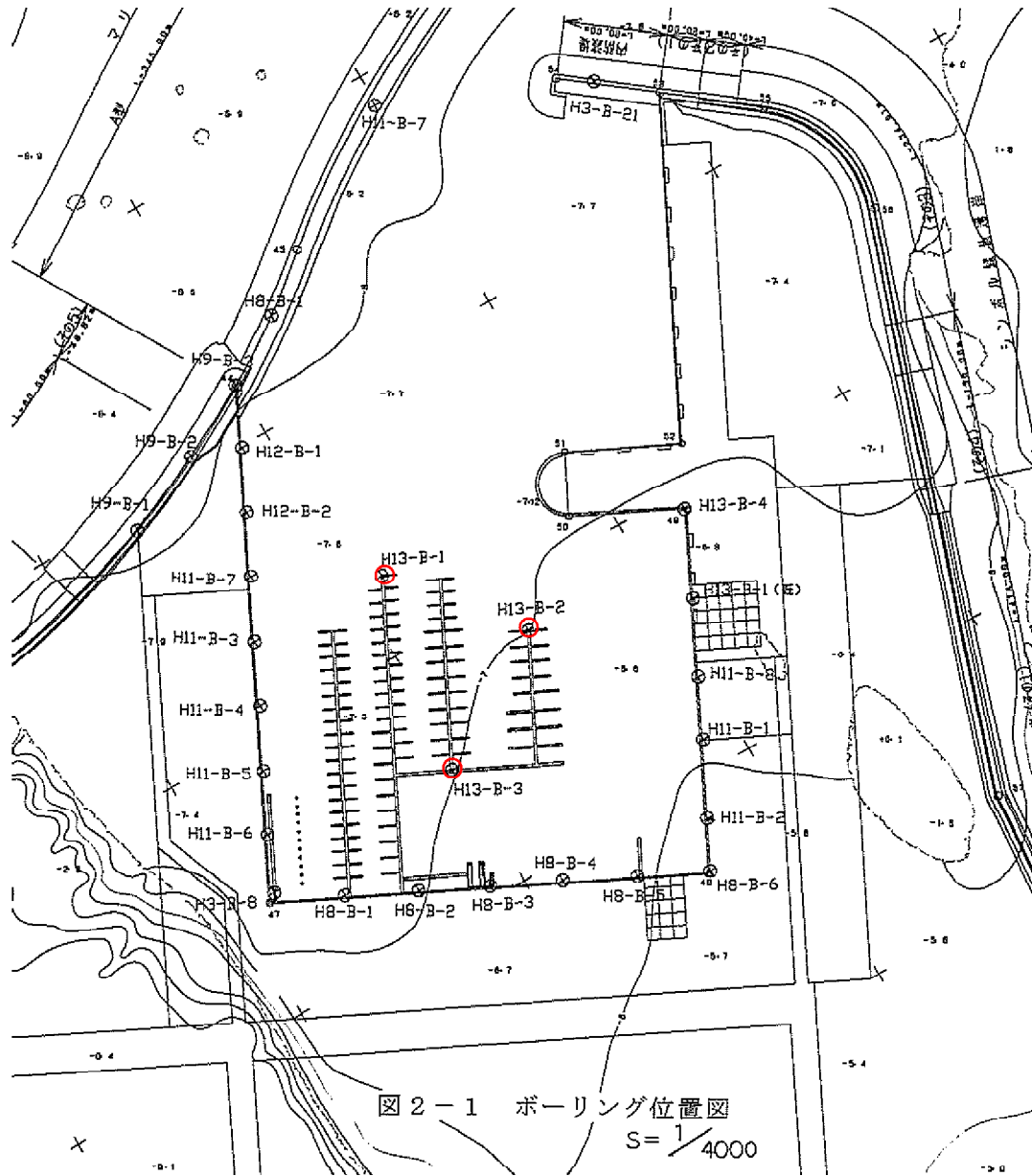


図 2-7 ボーリング位置図 (与那原マリーナ)

ボーリング名	H13-B-1	調査位置	与那原地先	北緯	° ' "
発注機関	沖縄県中城湾マリンタウン建設事務所	調査期間	平成13年11月26日～平成13年11月28日	東経	° ' "
調査業者名	株式会社 国建 電話 098-266-6645	主任技師		現代理人	
孔口標高	DL -7.43m	方位	270° 0' 0"	試験機	YBM-05D
総掘進長	10m	角度	180° 上下 0°	エンジン	ヤンマー
		地盤勾配	0°	落下用具	トンビ
				ポンプ	

深 度 m	層 厚 m	柱 状 図	土 質 区 分	色 調	相 対 密 度	記 事	標準貫入試験		深 度 m	試 験 名 及 び 結 果	試 料 採 取 方 法	室 内 試 験
							10cm毎の 打撃回数	打撃回数 / 貫入値				
0.00	0.05	0.05	シルト質砂	灰		均等粒度の細砂を主とし、全体にシルト質を含む。0.1~0.2mmの砂を数%混入する。	1	2				
0.45							20	30				
1.15							9	11	19			
1.45												
2.15							24	25	50			
2.55												
3.15							22	25	50			
3.55												
4.15							27	23	50			
4.55												
5.15							24	26	50			
5.55												
6.15							28	21	50			
6.55												
7.15							21	19	50			
7.55												
8.15							27	23	50			
8.55												
9.15							26	24	50			
9.55												
10.15	17.00	9.76	28.97				21	24	50			
10.55												
10.95												

株式会社 国建

図 2-10 柱状図 (H13B-1)

2.4 土質柱状図

宜野湾港マリーナ内の土質柱状図は、以下のとおりである。

(今回使用した柱状図のみ掲載)

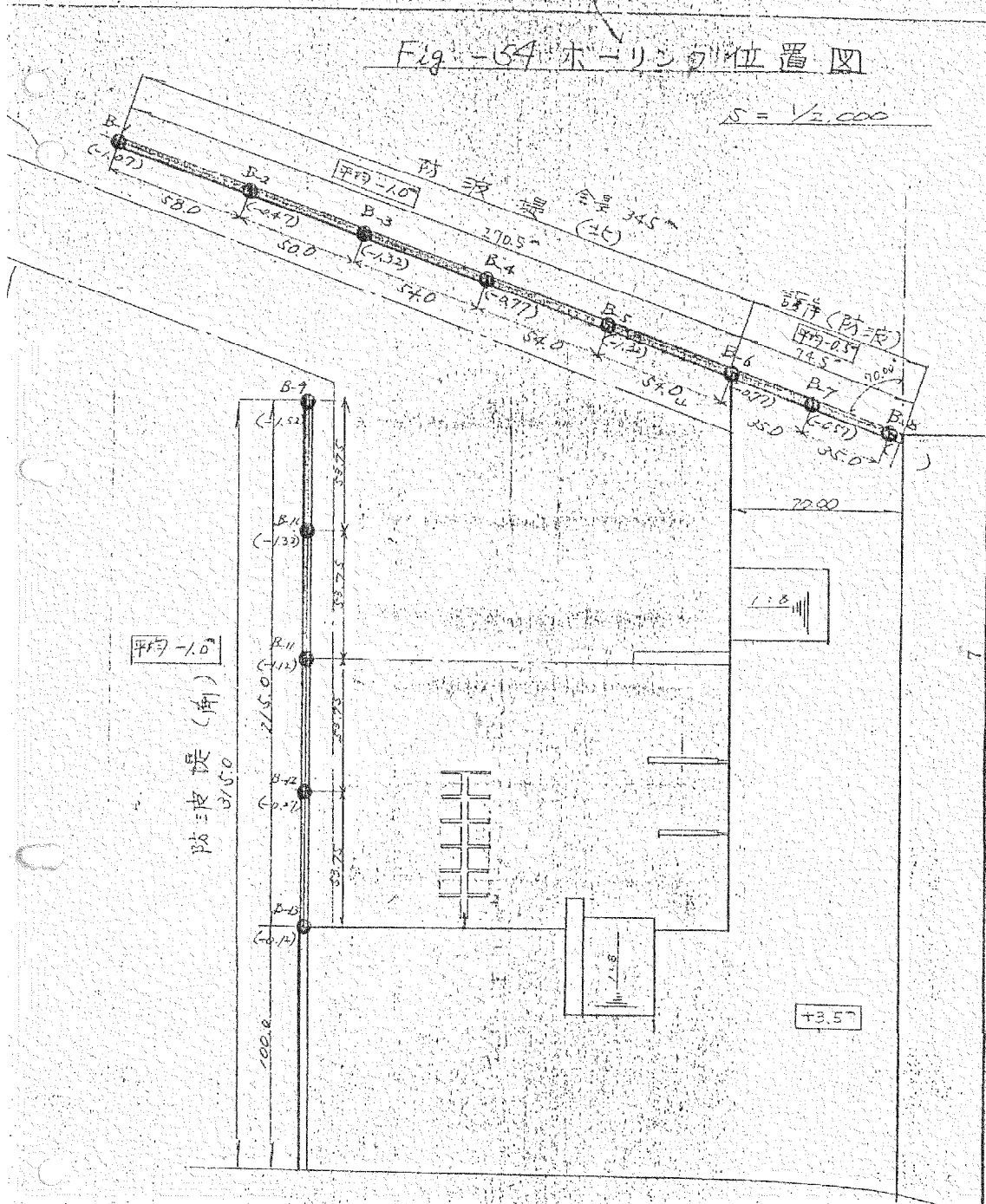


図 2-2 ボーリング位置図 (宜野湾港マリーナ)

Fig-65

土質柱状図

報告用紙

調査名・調査地点 宮野市島本町内倉野河湾測量調査計(その2) 標高 22-152 m 調査年月日 年 月 日 - 年 月 日

ボーリング孔: No B-9 孔内水位 _____ m 調査担当者 _____

標尺 m	標高 m	深さ m	層厚 m	現場観察記録			標準貫入試験						試料採取							
				土質記号	土質名	色調	深さ m	打撃回数 N	10cmごとの打撃回数			N 値			試料番号	深さ m				
								10 cm	20 cm	30 cm	0	10	20	30	40	50	60			
1				○●○●	山土質 砂礫	暗灰色	山土質の粗粒層 珪砂礫を主体とし M2.5 10%程度 見込層。ウニ針入 合比高値	22.15	2	30	30	○								
2	24.22	23.00	23.00	●●●●	礫混り 山土質砂	暗灰色	珪砂礫を主体とし M2.5 20%程度 見込層。ウニ針入 合比高値	22.65	2	30	30	○								23.00
3				●●●●			珪砂礫を主体とし M2.5 20%程度 見込層。ウニ針入 合比高値	22.15	2	30	30	○								
4				●●●●	山土質砂	青灰色	珪砂礫を主体とし M2.5 20%程度 見込層。ウニ針入 合比高値	22.45	2	30	15	○								25.00
5				●●●●			珪砂礫を主体とし M2.5 20%程度 見込層。ウニ針入 合比高値	22.45	2	30	15	○								
6				●●●●	礫混り 砂質山土	青灰色	珪砂礫を主体とし M2.5 20%程度 見込層。ウニ針入 合比高値	22.15	2	30	2	○								26.50
7				●●●●			珪砂礫を主体とし M2.5 20%程度 見込層。ウニ針入 合比高値	22.15	2	30	2	○								
8	22.22	21.70	21.70	●●●●	山土質 砂礫	青灰色	珪砂礫を主体とし M2.5 20%程度 見込層。ウニ針入 合比高値	22.45	2	30	2	○								28.00
9				●●●●			珪砂礫を主体とし M2.5 20%程度 見込層。ウニ針入 合比高値	22.15	2	30	2	○								
10	11.22	10.20	10.20	●●●●	山土質 砂礫	青灰色	珪砂礫を主体とし M2.5 20%程度 見込層。ウニ針入 合比高値	20.15	2	30	2	○								11.15
11				●●●●			珪砂礫を主体とし M2.5 20%程度 見込層。ウニ針入 合比高値	20.15	2	30	2	○								
12				●●●●	山土質 砂礫	青灰色	珪砂礫を主体とし M2.5 20%程度 見込層。ウニ針入 合比高値	21.35	2	30	11	○								12.15
13				●●●●			珪砂礫を主体とし M2.5 20%程度 見込層。ウニ針入 合比高値	21.35	2	30	11	○								
14				●●●●	山土質 砂礫	青灰色	珪砂礫を主体とし M2.5 20%程度 見込層。ウニ針入 合比高値	22.45	2	30	2	○								13.15
15				●●●●			珪砂礫を主体とし M2.5 20%程度 見込層。ウニ針入 合比高値	22.45	2	30	2	○								
16				●●●●	礫混り細砂	青灰色	珪砂礫を主体とし M2.5 20%程度 見込層。ウニ針入 合比高値	22.45	2	30	3	○								15.15
17	12.22	11.70	11.70	●●●●			珪砂礫を主体とし M2.5 20%程度 見込層。ウニ針入 合比高値	12.15	2	30	3	○								
18	18.22	17.40	17.40	●●●●	山土質 砂礫	青灰色	珪砂礫を主体とし M2.5 20%程度 見込層。ウニ針入 合比高値	18.22	2	30	8	○								18.15
19				●●●●			珪砂礫を主体とし M2.5 20%程度 見込層。ウニ針入 合比高値	18.22	2	30	8	○								

備考:

試料採取方法の記号

● シンウォールサンブラー

○ 貫入試験用サンブラー

◎ デニソン型サンブラー

⊕ フォイルサンブラー

× その他

不図複製 2-1

社団法人 土質工学会

図 2-3 柱状図 (B-9)

Fig-66

土質柱状図

報告用紙

調査名・調査地点 宜野湾市以東郡地内宜野湾港調査設計(その2) 標高 DL -1.32 m 調査年月日 年 月 日 ~ 年 月 日

ボーリング孔 No. B-10 孔内水位 m 調査担当者

標尺 m	標高 m	深さ m	層厚 m	現場観察記録				標準貫入試験				試料採取			
				土質記号	土質名	色	記号	深さ m	打撃回数 10cm	10 cm	20 cm	30 cm	N	試料番号	深さ m
1				●●●●●	砂混り	暗灰色	海成性硬粘土 細砂分を主体とし 細粒分混入した 珪藻類殻殻混入 max 20%程度 片殻片 ウニ殻混入 含水量低	1.15	5	2	3				
2	3.33	2.00	2.00	○●○●○	シルト質細砂	暗灰色	同上	2.15	10	2	4	4			
3				○●○●○		暗灰色	同上	2.35	30	2	4	4			
4				○●○●○	シルト質砂	暗灰色	同上	2.15	10	2	4	4			
5				○●○●○	砂	青灰色	同上	2.35	30	2	4	4			
6				○●○●○	砂	青灰色	同上	2.15	10	2	4	4			
7				○●○●○		青灰色	同上	2.35	30	2	4	4			
8	9.72	8.40	6.40	○●○●○		青灰色	同上	2.15	10	2	4	4			
9				○●○●○		青灰色	同上	2.35	30	2	4	4			
10				○●○●○		青灰色	同上	2.15	10	2	4	4			

図 2-4 柱状図 (B-10)